

住みやすい名古屋で、 充実の研究生活

社会環境学専攻 経済環境論講座 博士後期課程 1年

周 君如(シュウ クンジョ)さん

中国、重慶で生まれ育った周君如さん。「日本に行きたかった」という夢をかなえて、4年前名古屋大学にやって来た。中国、韓国で暮らした経験から、日中韓の連携で大気汚染問題に取り組めたら。そのための研究がしたいと、経済環境論講座の中田実研究室の門をたたいた。とはいえ、経済学の方でも、「環境経済学」はゼロからのスタート。中田先生から、その基礎をみっちりたたき込まれた。

最近の研究テーマは「中国における多階層の大気汚染政策」。中央政府と地方政府での環境政策のちがいを明らかにしながら理論モデルを導いて、最適な環境政策を組み立てようというもの。先行研究が少ないことが悩みと周さん。「自分は中国人なので大気汚染も実感しています。そこに少しでも役立てればいい」と研究に取り組んでいる。研究室では、すでに先輩格。「後輩はかわいい!」と、初めてのまぢで暮らす留学生たちを気にかける。

将来は、「中国でも、日本でも、研究者の道に行けたら幸せ」と周さん。「自分一人の戦い」という“研究”と、学生たちに親身に接する、中田先生のような“教育者”の両立を思い描いている。

周 君如さん



修士時代、臨床環境学研修(ORT)の「持続可能な地域づくりセミナー」で、岐阜県恵那市への地元自治体職員、NPO、移住者のインタビューなど実地調査に参加。高齢化が進む日本の過疎地だが、周さんは「実は面白そうな地域」と思い、外国人の視点からツアーづくりを提言した。「環境学研究科にしかない授業。すばく印象に残っています」。



愛知県主催、新城市を対象にした地域体験ツアーで「地域活性化について」プレゼンテーション

編集後記

リスクが存在する場合にはリスクの種類や大きさ等を知ることに加え、それらを踏まえてどう意思決定するかを考慮対応していく必要があります。そこで今回のエコラボトークではリスクのガバナンスに注目し、リスクが存在する場合の合意形成や政策策定についてお話をうかがいました。その中でガバナンスのアクターが政府から企業や市民社会を含めたものに広がっているという話が印象に残りました。エコラボトークにご参加いただいた皆様並びに原稿のご執筆やインタビューに応じていただいた皆様に感謝申し上げます。

(中野牧子)

環

KWAN

名古屋大学大学院
環境学研究科

【環・37号 広報委員会】

中野 牧子(環37号編集委員長)

勅使川原 正臣(広報委員長)

三村 耕一

坂井 亜規子

井料 美帆

上村 泰裕

山岡 耕春

編集／編集企画室 群

デザイン／オフィスYR

vol.37 2019年9月